

語りのなかの横須賀

—森光司氏の語り 5—

瀬 川 渉*

Yokosuka in Narratives

— Narrative by Mr. Mitsuji Mori(Part 5)—

Wataru SEGAWA

This paper is a sequel to the last Part 4 and tells the annual and traditional events held at Ushigome of Tsukui in Yokosuka City and at the elementary school while Mr. Mitsuji Mori experienced in as an elementary school child there, in addition to the event of Bon reported in the last Part.

Other than the event of Bon, the events during the first seven days of the New Year were well fulfilled ones. When other annual and traditional events, such as, Setsubun (February second or third, the day before beginning spring based on the lunisolar calendar), Hina-Matsuri (March third, dolls' festival or girls' festival) and Jugo-Ya (night of the full moon, on August 15 and September 13 of the lunar calendar) are included, some event was always held every month, and it was also confirmed that children were involved in the most of those events.

は じ め に

小稿は、森光司氏の語り4の続編であり、前稿で取り上げた盆行事以外の津久井牛込の年中行事や学校行事を中心とした語りである。前稿では図や写真ごとに説明文を付していたが、今回は行事ごとに説明し対応する図や写真は後出している。なお、スケッチはすべて光司氏が描いたのであり、ほぼ原画のとおりに掲載したが、瀬川が加筆修正し、光司氏の確認と了承を得た箇所もある。

* 横須賀市自然・人文博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238-0016 Japan.
原稿受付 2016年8月24日 横須賀市博物館業績 第726号
Key Words: Narrative of native, Annual and Traditional Event
キーワード: 話者, 年中行事

解 説 編

○十五夜と十三夜(図1・写真1 参照)

十五夜の日の日没、ススキと萩(ミソハギ)を一升瓶に挿し、15個の団子を勉強机にのせ、縁側の月光が当たるところに置いた。その際、畑で採れたサトイモ、サツマイモ、いがぐりも一緒に供えた。サトイモは皮をむいた生のまま供え、サツマイモはふかしたものを供えた。団子はその家の主婦が作った。団子は三方にはのせず、普通の皿にのせた。三方を持っている家は牛込では1軒だけだった。このとき使う萩は山からとってきたもので、お盆のときに供える萩は田んぼの隅で育てていたものを使った。供え物は晩ご飯のあとに、みんなで食べた。十三夜も十五夜と同じことをしたが、団子の数は13個だった。十五夜も十三夜も、よその家のお供え物を取って食べても良いことになっていたが、どうせ自分の家で食べるのだからと誰もそのようなことはしなかった。

○小学校の行事

運動会は10月に行っていた。小学校は1学年3クラスないし4クラスだった。赤・白・青にわかれて戦った。競技種目は、徒競走、騎馬戦、綱引き、玉入れ、ムカデ競争、リレーという基本的なものだったが、剣道やなぎなたもあった。男同士が剣道で対戦することもあったが、男女で剣道対なぎなたの試合もあった。男の方が力が強く有利に思えるが、足を払われるなどして高学年になると竹刀ではなぎなたに勝てなかった。どの競技も小学生だけが出場し、大人が参加することはなかったが、家族が応援に来ていた。運動会は朝から始まり午後3時くらいに終わった。途中、昼食休憩があり、応援に来ていた家族と一緒にご飯を食べた。光司氏の家は、姉二人が昼食をつくって応援に来ていたので、姉二人と光司氏だけの昼食だった。昼食には、甘いおぼろの海苔巻とかんぴょう巻きがでた。徒競走で1着になった場合に賞品をもらえたかは覚えていないが、優勝した組に賞品はなかった。

小学校ではサツマイモの栽培をしていた。栽培していた場所は、小学校の近くではなく、カイコンヤマと呼ばれていたところで、長沢の本行寺の北側の山である。高学年児童は春からサツマイモを育て、夏の終わりから秋にかけて低学年の児童とともに芋ほりに出かけた。収穫したサツマイモは小学校に戻り蒸かして食べた。戦時中の小学校で農作物を育てたり収穫したりしたのはそれだけだった。家の農作業が忙しい時期は学校が休みになった。

○正月行事(写真2～4参照)

1月1日から7日までの間に、牛込では各家(戸主とは限らない)が丸餅2つを持ち三浦富士に登り、頂上の祠に供えた。一番先に三浦富士の頂上に着いたものは、丸餅1つを供え、もう1つは持ち帰った。2番目以降に着いた者は、前の人が供えた丸餅を持ち帰り、自らが持ってきた丸餅1つを代わりに供える。自分が最初にお供えをするかもしれないので、みんな丸餅を2つ持って登った。つまり、2番目以降に着いた者は、前の人が供えた丸餅と自らが持ってきた丸餅1つ(2つのうち1つ)を持ち帰るのである。持ち帰った丸餅は、朝、家族全員で食べた。正月の間(1月7日まで)は、神棚へのお供え物(ダイコンナマス、ご飯など)は男がつくった。ただし、3日を過ぎると男がお供え物をつくらないこともあった。神棚には、お供え物のほかに、ダイダイをつけたサンマタ、魚、サカナ、トシガミサマ(写真3で、サンマタとだるまの間にあるもの)、を置いた。サカナ(写真4)とは、魚がないときに魚の代わりにしたものであったが、写真2のように魚があってもサカナを吊るしていた。

元日になってすぐ、小学校高学年の子どもたちは三浦富士の頂上に登った。頂上で「今日の吉き日は大君の」や「アジアの東、日出づるところ」と天長節や明治節の曲を歌った。森さんが高学年になったときには戦争が終わっていたため歌いに行ったことはなかった。

4日になると、7日のおんべ焼きのため、小学生たちが正月飾りを各家から集めてまわった。その際、お小遣いをもらえた。牛込ではその小学生の集団に呼び名はついていなかった。6日の夜までにおんべを組^{した}み上げ⁽¹⁾ 6日の晩は倉庫⁽²⁾見張りをして過ごした。ただし、これは牛込の下集落⁽³⁾だけで、上集落⁽⁴⁾では見張りはしていなかった⁽⁴⁾。7日は日の出前におんべに火をつけた。火をつける前に田んぼの水で濡らしたサンマタを地面に叩き付けながら「いまおんべ燃すぞ、じんじばんば飛び起きろ」と叫ぶ。おんべ焼きでは正月飾りだけでなく、コウメイシ(子産石のこと)も一緒に焼き、おんべ焼きが終わった後、コウメイシを田んぼに放り投げ、割れたら子どもが産まれるとって縁起が良いこととされていた。光司氏がかかわったおんべ焼きでは1回しか割れなかった。コウメイシは、普段から見つけたら集めておいた⁽⁵⁾。お正月は以上のような行事があったものの、のんびりと過ごした。

○節分(図3参照)

節分の日夕方になると、家族全員でタノクロの豆(前号掲載)を撒いた。ザシキやダイから撒いたが、外に向かって撒くというよりは部屋の中に撒き散らす感じだった。撒いた豆は、年の数だけ拾って食べた。

○3月のタカヌキ(図2・写真5参照)

南下浦小学校から浜に向かって坂を降りすぐの磯をタカヌキと呼んでいた⁽⁶⁾。そ

こに姉や近所の子供たち 6, 7 人で貝を採りに行ったことがある。毎年 3 月ごろに 1 回、終戦後 3、4 回行った。朝、牛込を出て昼前には着いた。着いてから 1 時間半から 2 時間ほど貝を採り、昼ご飯を食べた。昼ご飯は運動会と同じく姉が作り、甘いそばろの海苔巻とかんぴょう巻きだった。貝のほかにウニも採れ、家に持ち帰りゆでて食べたが、カキは石を使い岩からはがし、その場で生で食べた。同じように貝を採っていた子どもが何人かいた。昼ご飯が済むと家路についた。

走水にあさを採りに行ったこともあった。漁協が出している木札を腰にさげて走水小学校の近くの浜であさを採った。牛込から走水へ嫁いだ人がいて、そのついで泊りがけで出かけたが、先方の家庭の事情で、1 度きりしか行けなかった。

○家と間取り(図3参照)

森光司氏の語り家の周りには、モチの木を防火のために植えていた。森光司氏の語り2で家のなかのスケッチを掲載したが、各部屋の呼び方などは図3のとおりである。

○ひなまつり(図3参照)

あまり記憶にないが、ザシキに4、5段のひな飾りを置いていた。

○端午の節句(図2参照)

やったことはやったが、これもあまり記憶がない。柏餅を食べたが、餅をくるんだのは一般的な柏ではない葉であった。おそらくハリギリの葉だと思われる。菖蒲は萩(ミソハギ)と同じように田んぼの隅で育てていた。

○花祭り

円乗院にお茶をもらいに行った。そのお茶は甘茶でアジサイの葉に似ていた。おそらく、ヤマアジサイの葉と思われる。また、円乗院ではお地蔵さまにお茶をかけてからお参りをした。光司氏の家でも甘茶を作っていたが、牛込では珍しかった。牛込ではお茶としてよく出されていたのは、はぶそ茶であった。もちろん普通のお茶も育てていたが、普段は飲まなかった。

付 記

今回も森光司氏とご家族の方々に多大なるご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

注 記

(1) 牛込は、上と下の2つの集落に別れ、光司氏の実家は下の集落である。

(2) 前稿図 5 で語られた野菜置き場のこと

(3) 下のおんべ焼きは、 $35^{\circ} 12'31.9''N$ $139^{\circ} 39'36.1''E$ の辺りで行われた。

(4) 上のおんべ焼きは、 $35^{\circ} 12'42.0''N$ 139°

$39'26.2''E$ の辺りで行われた。

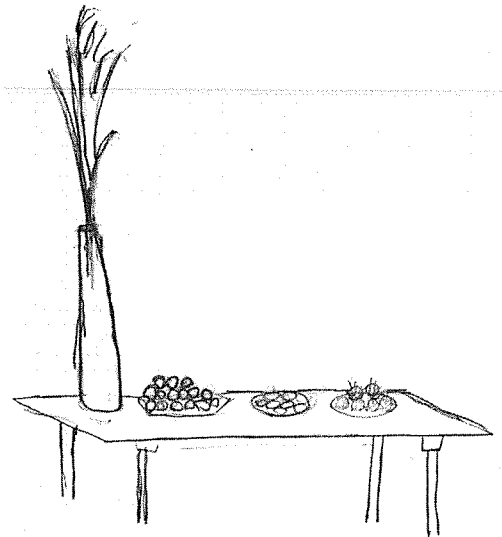
(5) コウメイシを集めていた場所は、 $35^{\circ} 12'28.6''N$ $139^{\circ} 39'34.2''E$ の辺りだった。

(6) タカヌキは、 $35^{\circ} 10'23.3''N$ $139^{\circ} 39'25.5''E$ の辺りだった。

写真・図版編



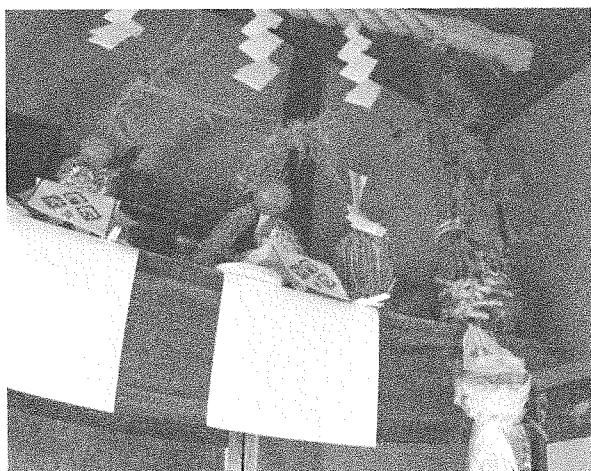
【写真 1】



【図 1】



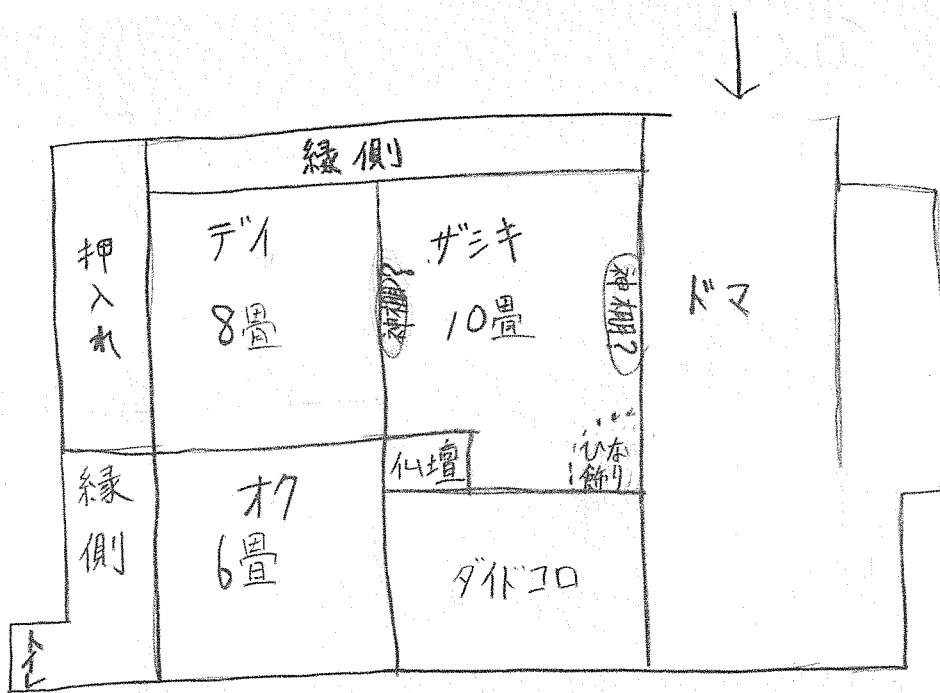
【写真2】



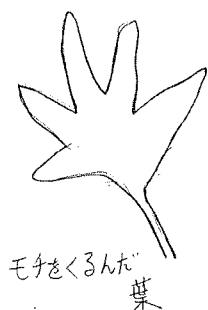
【写真3】



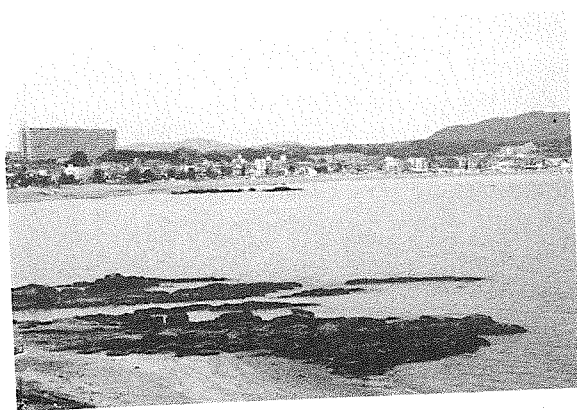
【写真4】



【図3】



【図2】



【写真5】

訂正

前稿の図3に誤りがありました。お詫びして訂正します。

